

## ベトナムにおける銀行制度と金利形成

新潟大学 伊藤 隆康

本稿では、ベトナムにおける銀行制度を明らかにした後に、金利の連動性やトランスミッション効果の観点から金利形成につき、計量実証分析を試みた。具体的には、短期の指標金利である VNIBOR (Vietnam InterBank Offered Rate) と長期金利である国債利回りを用いて、次に述べる 3 種類の分析を行った。(1)国内銀行が提示する短期金利と外国銀行が提示する短期金利の連動性とトランスミッション効果を検証した。(2)国内銀行と外国銀行のそれぞれが提示する満期が異なる短期金利間における連動性とトランスミッション効果を検証した。(3)短期金利と長期金利である国債利回りを用いて、国内銀行と外国銀行のそれぞれが提示する短期金利と国債利回り間における連動性とトランスミッション効果を分析した。

こうした分析の結果、以下にあるようなインプリケーションを得た。

- (1)国内銀行と外国銀行の金利市場は分断されていて、競争的な金利形成はなされていない。こうした分断現象が確認できる一方で、金利の提示において外国銀行は国内銀行の影響を受けている。言い換えれば、貸出のベースとなる指標金利の提示において、国内銀行が主導権を握っていると推察できる。このことはベトナムにおける外国銀行の貸出シェア (2007 年 9.01%、2008 年 10.15%) が低く、国内銀行が貸出市場の約 9 割のシェアを握っていることと平仄が合う。
- (2)外国銀行は短期金利の提示において国内銀行からの影響を受けているものの、独自の金利形成を行っている可能性が高い。国内銀行に比べて金融技術に優位性がある外国銀行は、金利裁定や金利期間構造などの理論に基づいた形で、短期金利を提示していると推測される。
- (3)短期金利と国債利回りとの連動性は観測されなかった。また、短期金利から国債利回りへのトランスミッション効果は限定的であるといえる。一方で、国債利回りが概ね短期金利に影響を与えていたことから、国内銀行と外国銀行は短期金利の提示において、国債市場の影響を受けている可能性が示唆された。

キーワード：ベトナム、銀行制度、短期金融市場、VNIBOR、国債市場

JEL Classification : E44, E52, G10